

## 平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 理工学研究科グローバル人材育成支援室/室長

氏 名: 半田 利弘

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ サンディエゴ州立大学 オーストラリア連邦西オーストラリア州パース 西オーストラリア大学
研修期間	2018年6月24日 ~ 2018年9月21日
〔研修の成果〕	
<p>今年度は新しく研修先地域にオーストラリア パースを追加し、西オーストラリア大学と関連の深い研究機関 ICRAR(国際電波天文学研究センター)での研修を実施することができた。</p> <p>理工学研究科修士1年生4名、2年生1名をサンディエゴへ11週間派遣し、修士1年生1名をパースへ10週間派遣した。これは、研究科Q2期と夏季休暇を利用し行われた。</p> <p>本海外研修は理工系の研修でも重要なオーラルコミュニケーションも重視しており、実践的な英語能力向上を図るため語学研修を派遣先大学附属語学学校で5~6週間にわたり実施した。</p> <p>その後、サンディエゴ研修では、現地大学等が主催する理工系プログラムに参加し、派遣学生の希望と能力を勘案した上で専門性をいかした研究室での研修、または専門性をいかした企業での就業研修等が行われた。</p> <p>パース研修では、語学研修終了後にICRARでの研究インターンシップを実施した。ここでは、派遣学生の専門性を活かした研究交流が行われた。</p> <p>地域貢献活動では、派遣学生の関心に基づいたテーマを自主的に選択し、日本と現地との比較を行った。対象として取り上げられたのは、ゴミ回収の実状、工学部における女子学生の比率、就職活動の方法、地域での天文普及活動、地域でのサイエンス活動である。これらの比較や相違点は来月開催する研修成果報告会でも発表をされ、派遣学生が現在置かれている地域や環境を改めて見直す機会になった。</p> <p>派遣学生は、これらの研修を通じて自らが培ってきた能力が実社会でどこまで通用するのか、日本と現地との共通点と相違点、また今後の成長に関して自らに足りない資質が何であるのかを体験的に学んできている。これらは、研修期間に作成されたレポートや研修終了後に行う英語でのプレゼンテーションからもうかがえる。</p> <p>派遣学生が将来のキャリアプランを考えていくなかで、海外で技術者や研究者としてグローバルに活躍することをキャリア選択の一つに入れることが目的の1つであった。その前提として、グローバル社会で活躍していくために必須となる幅広い国際的な視野や多民族や多文化を受入れる意識、国際コミュニケーション能力などを派遣学生の個人個人が経験した現地での具体的な体験を通して学ぶことで、身につけることができた。</p>	
〔今後の課題〕	
<p>今年度は経費面での改善を図り、参加学生数を増やすため、新たにオーストラリア、パースでの研修先を開拓し研修を実施した。しかし、今年度は派遣先での専門分野に限られてしまい、内容や質を担保する必要から十分な数の学生を派遣することができなかった。次年度においては、オーストラリアでの研修内容を充実させ、幅広い専門分野に対応できるプログラム開発をしていく必要がある。</p>	